※令和４年度以降入学生用

学校番号	3020

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	言語文化	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　言語文化　（第一学習社）						
副教材等	最新国語便覧（浜島出版） 体系古典文法、古典文法マスタードリル①（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「ことば」は、「心」「想い」が表出したものです。古典作品や現代の作品を読み、昔の人と現代人の感性が同一であることや相違することについて考えていきましょう。また、古典作品の中から、多くの先人の思いや知恵を学び取り、現代の生活に活かしていきましょう。２年生、そして３年生では「古典探究」を学びます。「言語社会」で基礎となる文法事項等をしっかりと身につけ、次年度以降の学びへと繋げて欲しいと思います。

文法事項や単語の暗記等で予習、復習が必須となりますが、しっかりと取り組んでいきましょう。

2　学習の到達目標

・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
・論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。
・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用
※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	・歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・説話を読み味わい、互いに話の面白さを伝え合おうとする。 ［教材］ 児のそら寝	a:語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 b:［書］作品に表れているものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈している。 c:学習の見通しをもって調べたり、説明したりしようとする。	定期考査・小テスト	行動の観察及び記述の点検・分析・授業態度	発問評価、行動の観察及び記述の点検・分析
	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って、和歌の果たす意味を捉える。 ・他の章段や他作品の同話とそれぞれ読み比べ、作品の内容を深める。 ［教材］ 芥川、今昔物語「鬼に～」	a:用言の活用について、文語のきまりを理解する。 b［読］:作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 c:異なるテクストを読み比べ、わかったことを伝えようとする。	定期考査・小テスト	記述の確認・分析及び定期考査・小テスト	発問評価、行動の観察及び記述の点検・分析
2学期	・漢文の訓読のきまりを理解する。 ・我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味、関心を深める。 ［教材］ 漁夫之利、狐借虎威、蛇足	a:漢文の訓読、再読文字の読み方を習得している。 b:［読］内容や展開を的確に捉えている。 c:故事成語の由来となった話を積極的に読み、分かった内容を工夫してまとめようとしている。	定期考査・小テスト	記述の確認・分析及び定期考査・小テスト	発問評価、行動の観察及び記述の点検・分析
	・詩の形式、散文詩に親しみ、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・俳句の鑑賞の方法を理解し、俳句文芸に親しむ。 ［教材］ I was born、こころの帆	a:詩の形式、俳句の形式を理解している。 b:［読］作品に表れているものの見方、考え方を捉えている。 c:情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。	定期考査・小テスト	記述の確認・分析及び定期考査・小テスト	発問評価、行動の観察及び記述の点検・分析
3学期	・随筆を読み、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・主として助動詞について、文語のきまりを理解する。 ［教材］ 徒然草「ある人～」	a:文語のきまりを理解している。 b:［読］随筆という文体を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 c:取り上げた対象に触れ、進んで解釈を進めようとしている。	定期考査・小テスト	記述の確認・分析及び定期考査・小テスト	発問評価、行動の観察及び記述の点検・分析

※単元の評価規準［ｂ］について…括弧内には［　話／聞、書、読　］のどれか一つを記入して下さい。
※年間の各領域時間数
・話すこと／聞くこと　…　（　０　）時間
・書くこと　…　（　５　）時間
・読むこと　…　（　古典　４５　近代以降　２０　）時間